

当局・動労本部「スト破り連合」を粉碎し闘いぬく

助役機関士線見訓練 阻止

才3日目(2/21)佐倉の闘い

日刊 動労千葉

81.2.23

No.667

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五〜六(公衆)055227二〇七

スト破り本部派を徹底糾弾せよ

佐倉支部は、成田における乗務中の動労千葉機関士を公安機動隊を使って暴力的に運転室から排除するという国鉄史上前代未聞の暴挙に抗した闘いと相呼応して第三日目の闘いを勝利的に貫徹した。佐倉での闘いは異常なまでの弾圧体制下で、「助役機関士線見受け入れ決定」をもってスト破りを公然と容認しその尖兵と化した動労「本部」派への弾劾行動を助役機関士線見阻止行動と併行して闘い抜かれたのである。

スト破り・裏切り分子
土屋粹、鈴木(正)に
糾弾の嵐ノ

六時四十分、佐倉支部を中心とした各支部からの動員者六〇名は、乗務員詰所において闘いにむけた意志統一を行う。どの組合員の顔も明るく、闘争勝利を確信して眼は輝いている。

堀口佐倉支部長は、「昨日、私は皆さんの力で助役機関士線見を阻止することができました。今日もガンパロー」とあいさつする。意志統一の後直ちに班編成を行い庁舎玄関前で助役機関士線見阻止、「本部」派スト破り裏切り糾弾のシュプレヒコール、構内デモを行う。七時十五分、「本部」派機関士小川建二を引きつけて裏切り者土屋粹、鈴木正広が首をうなだれてノコノコと現れる。

「スト破り裏切り分子は許せない」と怒りに燃えた動労千葉組合員はこの三名に対して徹底糾弾の声を浴せる。卑怯者土屋粹はこの怒りの声に動転して逃げ去ろうとするが、わが組合員の「助役機関士線見を認めない理由を明らかにしろ」との追及にまともに答えることすらできず、すくみあがり、鈴木正広はガタガタふるえながら「ジェット輸送をやるからには警備を行うよう要求した」とスト破りの本音を吐く仕末であった。また、小川建二は、顔をひきつらせ声もなく当局に保護されて当直室に逃亡するという、動労千葉組合員

の眼前で当局とのユ着ぶりをマザマザと見せつけてくれたのであった。

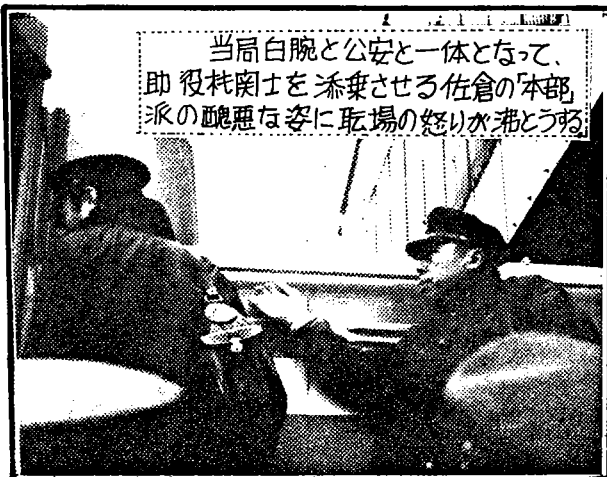
当局に保護され
スト破り、挑発を行う
「本部」派小川建二

この日、動労「本部」派のスト破り裏切り集団の本性を体現して権力・当局の尖兵となつてしゅん動したのが、短期転勤者(元広島厚狭支部青年部役員)小川建二である。この

小川建二なる男は、昨年七月、ありもしない監禁・暴行の「被害者」として自らをデッチ上げ、動労千葉組合員を名指しで権力にタレコムという「前歴者」である。この男は、線見訓練列車四九一レを乗務担当することを理由に、助役機関士と肩を並べ当局に保護されて動労千葉のピケ隊にぶつかり、挑発をくりかえしたのである。しかも機関車に乗り込むや、運転室のラッチをかけて中に閉じ籠り、助役機関士が動労千葉の抗議の声を浴びながら機関車に乗り込むや、一早くラッチをあけて運転室に招き入れ、再びラッチをかけるというスト破り裏切りを地で行く行為をしたのだ。

鉄労ならいざ知らず、「反ファシズム統一戦線」「反謀略運動」「あたりまえの労働運動」等とわめく動労「本部」派の真の姿はスト破り当局連合ぶりが、ここに満天下に明らかになされたのだ。

当局白腕と公安と一体となって、助役機関士を添乗させる佐倉の本部派の醜態な姿に転場の怒りが沸とう



当局・動労「本部」
スト破り連合を粉碎せよ

三月ジェットスト破りのための当局・動労「本部」連合の反動的行為は極めて醜悪である。それ以外にも次のような事実もある。すなわち、心ならずも「本部」派組合員になり、このスト破り方針に疑問をもつ機関士は、当局に「消極的」に助役機関士の線見に「抵抗」している。しかし土屋粹は助役機関士の線見受け入れを「本部」派機関士に強制し、当局は「抵抗」する「本部」派機関士に「事故が起きたら全責任を負う」とベテンの口約束をもってスト破りに加担させているのだ。

全組合員の皆さん。もはや事態は鮮明である。

当局・動労「本部」連合によるこの異常なまでの弾圧体制は三月闘争破壊攻撃を一糸乱れぬ行動をもって粉碎し、本日の第五回臨時大会を成功させ、三月ストライキへ前進しよう。